科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
基礎看護学概論 （看護理論・対象論含）	１年前期	1	45	（看護師として30年）

科目のねらい

看護を学ぶ者の入り口として看護の本質や専門性・独自性、看護の機能・役割、主要な看護理論について学ぶ。また看護の主要概念である「人間」「健康」「環境」について理解を深める。看護の歴史的変遷を学習し、現代看護を取り巻く状況やチーム医療の中での看護職の役割について学ぶ

到達目標

１．看護を構成する人間、健康、環境、看護の概念を学び、看護の本質を理解する。
２．保健・医療・福祉における看護の役割と機能を学び、看護の方法及び看護活動の概要を理解する。
３．看護の対象を生活者として、成長発達・心理・社会的側面から理解する。

DPとの関連

◎2.人を尊重し、思いやりの心をもって行動することができる。
◎3.看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる。

授業計画

回	目標	学習内容	方法	担当
1 2 3	１．看護の概念を理解し、看護の本質について説明できる	授業ガイダンス １．看護の歴史 ２．看護の定義	講義 ジグソー学習	
4 5 6	２．ナイチンゲールの看護覚え書きを用いて、看護とはを考え、説明できる	１．看護覚え書き それぞれ担当個所を学び、お互いに教えあう ２．看護覚え書きから見える自分自身の生活を振り返る	ジグソー学習	
7 8	３．主要な看護理論について学び、看護とは何か説明できる	１．看護理論とは ２．各理論家の特徴 ナイチンゲール、ヘンダーソン、オレム、ロイ ペプロー．オーランド、ワトソン、ベナー	講義 特派員	
9	３．看護の対象である人間について述べることができる	１．人間とは何か ２．人間の特徴・特性 ３．統合体としての人間 ４．ニードを持つ ５．成長発達する ６．システムとしての人間 ７．生活者として人間 ８．家族・集団・地域	講義	
10	４．看護の対象を生活者として、成長発達・心理・社会的側面から説明できる	１．人間の成長発達と発達段階 １）成長発達の一般原則 ２）リビドーの発達段階 ３）ハヴィガーストの発達課題 ４）エリクソンの発達課題 ５）発達段階	講義	
11	５．看護の対象である人間のこころとストレスについて述べることができる	１．ストレスとは ２．ラザルスの理論 ３．防衛機制 ４．危機介入とストレス対処法	講義	
12	６．人間の健康のとらえ方について説明できる	１．健康の概念、その変遷 ２．ウェルネスの定義 ３．健康のレベル ４．健康の指標	講義	
13	７．国民の健康状態について説明できる	１．国民の健康の全体像 ２．国民のライフサイクル	講義	
14	８．看護における倫理の必要性を理解し、倫理問題について説明できる	１．倫理とは、倫理原則 ２．看護職の倫理綱領	講義	
15	９．看護教育制度について理解し、自己の位置づけを確認する	１．看護教育の始まり ２．看護職の資格と養成	講義	

16	１０．看護と医療安全について理解し、その関係がわかる	１．医療安全の必要性 ２．医療事故の法的責任 ３．ヒューマンエラーとその特性 ４．医療事故分析、対策	講義	
17	１１．看護提供のしくみについて理解し、全体像が説明できる	１．看護におけるサービスの意味 ２．チーム医療の概要 ３．看護サービス提供の場 ５．看護をめぐる法制度 ５．看護サービスと経済の関連	講義	
18 19 20 21 22 23	１２．大切な人の健康を守るための提案集を作成できる	１．プロジェクト学習、ポートフォリオの基本 ２．プロジェクト学習で身につく力 ３．目標設定　ビジョン－ゴール 企画書、工程表の作成 ４．プレゼンテーションの方法と実際 制作、プレゼンテーション ５．ポートフォリオ評価と再構築 プレゼンテーション評価 再構築 自己成長の確認	講義 演習	

受講上の注意

意欲的に授業に取り組む

関連科目

心理学
看護者のための心理学
各看護学

事前および事後学習

毎日の復習を欠かさないようにする

成績評価の方法

筆記試験70%　レポート10%　ポートフォリオ20%

教科書・参考書・その他の教材

教科書
系統看護学講座　専門分野　基礎看護学①　看護学概論　医学書院
看護覚え書「本当の看護とそうでない看護」1859　フローレンス・ナイチンゲール日本看護協会出版会
医療倫理学ABC　第４班　服部健司　伊藤隆雄　編著　メジカルフレンド社

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
看護基本技術Ⅰ （概念・コミュニケーション・感染予防）	1年前期	1	30	（看護師として9年6か月） （看護師として24年）

科目のねらい

看護技術を実現するために必要な基本的態度や医療におけるコミュニケーションの重要性を理解し、関係構築のためのコミュニケーションの方法を学ぶ。また、すべての看護技術の基本である標準予防策を学ぶ。

到達目標

１．看護技術を実施するために必要な基本的態度や医療におけるコミュニケーションの重要性を理解する
２．関係構築のためのコミュニケーションの方法を理解する
３，感染予防策の基礎知識を習得できる
４，看護における教育支援について理解できる

DPとの関連

◎2.人を尊重し、思いやりの心をもって行動することができる。
◎3.看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる

授業計画

回	目標	学習内容	方法	担当
1	看護技術の概念	①看護技術とは　②看護技術の意義　③看護の三原則	講義	
2	コミュニケーションの意義と目的を述べることができる	①コミュニケーションとは ②看護・医療におけるコミュニケーション	講義	
3	コミュニケーションの構成要素と成立過程を述べることができる	①コミュニケーション手段 ②構成要素と成立過程 ③ミスコミュニケーション ④看護専門職として備えるべきコミュニケーション能力向上のために	講義	
4 5	関係構築のためのコミュニケーションの基本を理解できる	①接近的コミュニケーションの原理 　プロセスレコードで自身のコミュニケーションを振り返る ②接近的行動の前提となる基本的な態度 ③接近的行動と非接近的行動 ④接近的コミュニケーションを成立させるには	講義	
6		プロセスレコード検討会	演習	
7	効果的なコミュニケーションを考え実施できる	①傾聴の技術 ②情報収集の技術 ③説明の技術 ④アサーティブネス	講義	
8	コミュニケーション障害への対応を述べることができる	①コミュニケーションに障害がある人の特徴 ②言語的コミュニケーションに必要な身体機能 ③コミュニケーション障害がある人への対応□	講義	
9	感染とその予防の基礎知識を述べることができる	①感染と感染症 ②感染成立の条件 ③感染予防 ④院内感染の防止 ⑤標準予防策の基礎知識	講義	
10 11	標準予防策（スタンダードプリコーション）を学び、実施できる	②予防対策の実際	講義 演習	
12	感染経路別予防策について述べることができる	①感染経路別予防策の基礎知識 ②接触予防策 ③飛沫予防策 ④空気予防策	講義	
13	洗浄・消毒・滅菌の方法を述べることができる	①洗浄・消毒・滅菌の基礎知識 ②洗浄　③消毒と滅菌	講義	
14 15	無菌操作の方法を述べることができ、実施できる	①無菌操作の基礎知識 ②対策の実際	演習	

受講上の注意	関連科目
意欲的に授業に取り組むこと。演習時、真剣に取り組むこと。	論理学、心理学、看護者のための心理学、倫理学、微生物学、病理学

事前および事後学習

関連科目の既習部分を復習し、本授業に取り組む

成績評価の方法

筆記試験100%

教科書・参考書・その他の教材

系統看護学講座　基礎看護学①看護学概論　医学書院
系統看護学講座　基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ　医学書院
系統看護学講座　基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ　医学書院
系統看護学講座　基礎看護学④臨床看護総論
医学書院根拠と事故防止からみた　基礎・臨床看護技術　医学書院
系統看護学講座　人体の機能と構造①解剖生理学　医学書院解
系統看護学講座　人体の機能と構造④病態生理学　医学書院

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
看護基本技術Ⅱ （ヘルスアセスメント・ バイタルサイン測定・記録報告）	1年前期	1	30	（看護師として９年）

科目のねらい

人間の健康状態を身体的・精神的・社会的側面から総合的に査定（アセスメント）するための視点を理解し、健康状態をアセスメントするために必要なフィジカルアセスメントの技術を習得する内容とした。

到達目標

１．健康状態を身体的・精神的・社会的側面から総合的に査定（アセスメント）するための知識と技術を学ぶ.

DPとの関連

◎3.看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる

授業計画

回	目標	学習内容	方法	担当
1	ヘルスアセスメントについて述べることができる	①ヘルスアセスメントが持つ意味 ②ヘルスアセスメントにおける観察 ③ヘルスアセスメントにおける重要な視点 ④問診の技術を活用した健康歴聴取 ⑤セルフケア能力のアセスメントと情報の整理	講義	
2	全体の概観を捉える要素を理解できる	①フィジカルアセスメントに必要な技術 問診（面接）、視診、触診、聴診、打診の技術 ②全身状態・全体印象の把握 ③心理的側面のアセスメント ④社会的側面のアセスメント	講義	
3 4 5	系統的フィジカルアセスメントに必要な技術を考え実施できる	①呼吸器系のフィジカルアセスメント ②循環器系のフィジカルアセスメント ③腹部のフィジカルアセスメント ④筋・骨格系のフィジカルアセスメント ⑤神経系のフィジカルアセスメント ⑥頭頚部と感覚器（眼）のフィジカルアセスメント	講義 演習	
6	生命の兆候である体温のメカニズムと測定方法を理解できる。	①バイタルサインとは ②体温調整のメカニズム ③体温に影響する因子 ④体温測定の方法	講義	
7	生命の兆候である脈拍・呼吸のメカニズムと測定方法を理解できる。	①脈拍とは ②触知部位と方法 ③脈拍に影響する因子 ④測定方法 ⑤呼吸のメカニズム ⑦呼吸に影響する因子 ⑧呼吸状態の観察内容 ⑨測定方法	講義	
8	生命の兆候である血圧のメカニズムと測定方法を理解できる。	①血圧とは ②血圧に影響する因子 ③血圧の測定方法	講義	
9	生命の兆候である意識障害のメカニズムと確認方法を理解できる。	①意識障害の原因 ②意識レベルの分類と確認方法	演習	
10 11	対象の状態に応じたヘルスアセスメントができる	肺炎の事例を通して ①ヘルスアセスメント ②フィジカルアセスメント ③バイタルサインの測定	演習	
12 13	看護記録の内容を理解し記載できる。また、内容を報告できる	①看護記録とは ②記載・管理における留意点 ③看護記録の構成 ④報告	講義	
14	看護における学習支援について述べることができる	①学習支援の背景 ②看護師の役割としての学習支援 ③看護の学習支援技術の発展	講義	
	健康に生きることを支える学	①学習の基本となる考え方		

15	習支援について述べることができる	②様々な場で行われる学習支援	講義	

受講上の注意	関連科目
意欲的に授業に取り組むこと。演習時、真剣に取り組むこと。	解剖生理学Ⅰ、看護者のための心理学

事前および事後学習

解剖生理学Ⅰ復習し、本授業に取り組む

成績評価の方法

筆記試験100%

教科書・参考書・その他の教材

系統看護学講座　基礎看護学①看護学概論　医学書院
系統看護学講座　基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ　医学書院
医学書院根拠と事故防止からみた　基礎・臨床看護技術　医学書院
系統看護学講座　人体の機能と構造①解剖生理学　医学書院解
系統看護学講座　人体の機能と構造④病態生理学　医学書院

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
看護基本技術Ⅲ （看護過程）	1年後期	1	30	（看護師として９年）

科目のねらい

健康上援助を必要とする対象の相互作用に基づいて行う看護上の問題解決過程、基準や根拠に基づきものごとを考えるクリティカルシンキングについて学ぶ

到達目標

１．看護上の問題解決過程やクリティカルシンキングについて学ぶ

DPとの関連

◎2.人を尊重し、思いやりの心をもって行動することができる。
◎3.看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる

授業計画

回	目標	学習内容	方法	担当
1 2	看護過程の概念について述べることができる	①看護過程の５つの構成要素 ②5つの構成要素の関係性 ③看護過程を用いることの利点	講義	
3 4 5	看護過程を展開する際に基盤となる考え方を述べることができる	①問題解決過程とは ②問題解決に必要な力 ③問題解決過程と看護過程 ④リフレクション	講義	
6 7 8 9 10 11 12 13	看護過程の各段階を知り、活用できる	①アセスメント（情報の収集と分析） ②看護問題の明確化（看護診断） ③看護計画　④実施　⑤評価 ※9回目からは事例展開	講義	
14 15		事例検討についての発表（計画立案まで）	演習	

受講上の注意

意欲的に授業に取り組むこと

関連科目

看護基礎技術Ⅰ、看護基礎技術Ⅱ、解剖生理学Ⅰ・Ⅱ、看護者のための心理学

事前および事後学習

事例にある疾患について事前学習をして本授業に臨むこと

成績評価の方法

筆記試験80%　レポート20%

教科書・参考書・その他の教材

ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断　医学書院
看護診断ハンドブック　医学書院
系統看護学講座　基礎看護学①看護学概論　医学書院
系統看護学講座　基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ　医学書院
系統看護学講座　基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ　医学書院
医学書院根拠と事故防止からみた　基礎・臨床看護技術　医学書院
系統看護学講座　人体の機能と構造①解剖生理学　医学書院解
系統看護学講座　人体の機能と構造④病態生理学　医学書院

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
生活援助技術Ⅰ （環境・活動休息）	1年前期	1	30	（看護師として10年） （看護師として8年）

科目のねらい

健康生活を維持していくうえで欠くことのできない基本的な日常生活行動の援助を学ぶ内容とした。

到達目標

１．日常生活を整え人間の基本的ニード（環境整備、活動休息）を満たすための基本的な知識・技術を学ぶ

DPとの関連

◎2.人を尊重し、思いやりの心をもって行動することができる。
◎3.看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる

授業計画

回	目標	学習内容	方法	担当
1	環境整備援助の基本知識を述べることができる	①人間にとっての環境の意義 ②療養生活の環境 ③病室の環境のアセスメントと調整	講義	
2	環境整備の方法を理解できる	①ベッド周囲の環境整備 ②病床を整えるとは	講義	
3 4 5	環境整備と下シーツ用いたベッドメーキングを実施できる	①ベッド周囲の環境整備の実施 ②下シーツを用いたベッドメーキング	演習	
6	臥床患者のシーツ交換を実施できる	臥床患者のシーツ交換の実施	演習	
7	睡眠・休息の基本的知識を理解できる	①睡眠・休息の意義 ②睡眠のメカニズム ③睡眠の影響因 ④睡眠、休息の援助	講義	
8	安楽を促進するためのケアを実施できる	安楽を目的とした罨法	講義 演習	
9	活動・姿勢の基本的知識を理解できる	①基本的活動の基礎知識 ②体位と姿勢	講義	
10	ボディメカニクスの活用方法を述べることができる	②ボディメカニクス ③移動（体位変換・歩行・移乗・移送）	講義	
11 12	体位変換の目的・原則、体位変換・移動時の留意点を考え実施できる	①体位変換の実際 ②ポジショニング ③背抜き	演習	
13 14 15	ストレッチャー・車椅子移送時の留意点、歩行介助の方法、歩行補助具の使用方法を知り、実施できる	①移送・移乗の実際 ②歩行介助の実際	演習	

受講上の注意

意欲的に授業に取り組むこと。演習時、真剣に取り組むこと。

関連科目

解剖生理学Ⅰ、看護者のための心理学

事前および事後学習

解剖生理学Ⅰを復習し、本授業に取り組む

成績評価の方法

筆記試験100％

教科書・参考書・その他の教材

系統看護学講座　基礎看護学①看護学概論　医学書院
系統看護学講座　基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ　医学書院
系統看護学講座　基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ　医学書院
医学書院根拠と事故防止からみた　基礎・臨床看護技術　医学書院
系統看護学講座　人体の機能と構造①解剖生理学　医学書院解
系統看護学講座　人体の機能と構造④病態生理学　医学書院

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
生活援助技術Ⅱ （食事・排泄）	1年後期	1	30	（看護師として５年） （看護師として38年）

科目のねらい

健康生活を維持していくうえで欠くことのできない基本的な日常生活行動の援助を学ぶ内容とした。

到達目標

１．日常生活を整え人間の基本的ニード（食・排泄）を満たすための基本的な知識・技術を学ぶ

DPとの関連

◎2.人を尊重し、思いやりの心をもって行動することができる。
◎3.看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる

授業計画

回	目標	学習内容	方法	担当
1	食事援助の基本知識を述べることができる	①栄養状態および摂食能力、食欲や食に対する認識のアセスメント ②医療施設で提供される食事の種類と形態	講義	
2 3	食事摂取の介助方法を理解し、実施できる	①援助の基礎知識 ②援助の実際	講義 演習	
4 5	非経口的栄養摂取の援助	①経管栄養法　胃管カテーテル挿入、注入 ②中心静脈栄養法	講義 演習	
6 7 8	排泄援助の基本的知識を述べることができる	①自然排尿および自然排便の基礎知識 ②自然排尿および自然排便の介助の実際 尿器、便器の使用方法と留意点	講義 演習	
9 10 11	導尿について理解でき実施でき	①一時的導尿 ②持続的導尿	講義 演習	
12 13	排便を促す援助について理解でき、実施できる	①排便を促す援助の基礎知識 ②摘便	講義 演習	
14 15	排便を促す援助について理解でき、実施できる	①浣腸（グリセリン浣腸）	講義 演習	

受講上の注意

意欲的に授業に取り組むこと。演習時、真剣に取り組むこと。

関連科目

解剖生理学Ⅰ、看護者のための心理学

事前および事後学習

解剖生理学１、看護者のための心理学を復習し、本授業に取り組む

成績評価の方法

筆記試験100％

教科書・参考書・その他の教材

系統看護学講座　基礎看護学①看護学概論　医学書院
系統看護学講座　基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ　医学書院
系統看護学講座　基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ　医学書院
医学書院根拠と事故防止からみた　基礎・臨床看護技術　医学書院
系統看護学講座　人体の機能と構造①解剖生理学　医学書院解
系統看護学講座　人体の機能と構造④病態生理学　医学書院

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
生活援助技術Ⅲ （清潔・衣生活）	1年後期	1	30	（看護師として９年６か月） （看護師として９年）

科目のねらい

健康生活を維持していくうえで欠くことのできない基本的な日常生活行動の援助を学ぶ

到達目標

１．日常生活を整え人間の基本的ニード（清潔・衣生活）を満たすための基本的な知識・技術を学ぶ

DPとの関連

◎2.人を尊重し、思いやりの心をもって行動することができる。
◎3.看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる

授業計画

回	目標	学習内容	方法	担当
1	皮膚・粘膜の構造と機能を知り、清潔援助の効果と全身への影響を理解する。	①皮膚の構造と機能、清潔の保持 ②衣類・温度調整	講義	
2	清潔援助の方法選択の視点を理解し、それぞれの身体清潔の方法を述べることができる	清拭、洗髪、入浴（各々全身または部分）の方法・留意点・石鹸清拭、部分清拭　　ケリーパッド、洗髪車	講義	
3	安全・安楽に口腔ケアを実施できる	口腔内の洗浄方法・留意点 ・ブラッシング法	講義	
4	義歯の取り扱いができる	義歯の構造、義歯の清潔保持	講義	
5 6 7 8	安全・安楽に臥床患者の清拭と寝衣交換を実施できる	臥床患者の全身清拭 ・温タオルでの清拭　　臥床患者の部分浴	講義 演習	
9 10	安全・安楽に臥床患者の手浴・足浴を実施できる	臥床患者の部分浴 ・手浴、足浴	講義	
11 12	陰部洗浄の留意点を理解し実施できる	陰部の構造と機能、陰部洗浄の方法・留意点	演習	
13 14 15	安全・安楽に臥床患者の洗髪を実施できる	臥床患者の洗髪の一連 ・ケリーパッドでの洗髪	講義	

受講上の注意

意欲的に授業に取り組むこと。演習時、真剣に取り組むこと。

関連科目

解剖生理学Ⅰ、看護者のための心理学

事前および事後学習

本時で学習内容については事前にテキストを確認しておく。

成績評価の方法

筆記試験100%

書・その他の教材

教科書
系統看護学講座　基礎看護学①看護学概論　医学書院
系統看護学講座　基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ　医学書院
系統看護学講座　基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ　医学書院
医学書院根拠と事故防止からみた　基礎・臨床看護技術　医学書院
系統看護学講座　人体の機能と構造①解剖生理学　医学書院解
系統看護学講座　人体の機能と構造④病態生理学　医学書院

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
診療補助技術Ⅰ （創傷管理・呼吸を整える技術）	2年前期	1	15	（看護師として38年）

科目のねらい

看護の対象や医療者の感染予防のために必要な知識、技術や検査・治療・処置に伴う看護技術を理解する

到達目標

１．診療に伴う生体機能管理技術を習得する

DPとの関連

◎3.看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる

授業計画

回	目標	学習内容	方法	担当
1	呼吸を整える援助について述べることができる	①援助の基礎知識 ・酸素療法 ②排痰ケアの基礎知識 ・吸入 ・吸引 ・体位ドレナージ	講義	
2 3		・酸素療法 ・吸入 ・吸引 ・体位ドレナージ	演習	
4 5	包帯法の援助について述べ、実施できる	①包帯法の実施 ・環行帯、麦穂帯、亀甲帯 ②三角巾の使用方法	講義 演習	
6	創傷管理の基礎知識を述べることができる	①創傷 ②創傷治癒のための環境づくり ③創傷処置 ④テープによる皮膚障害 ⑤管理法	講義 演習	
7 8	救命救急処置	BLS講習	講義 演習	鳥栖消防署

受講上の注意

意欲的に授業に取り組むこと。演習時、真剣に取り組むこと。

関連科目

微生物学、病理学、解剖生理学Ⅰ、生活援助技術Ⅱ

事前および事後学習

微生物学・病理学・解剖生理学Ⅰ・生活援助技術を復習し、本授業に取り組む

成績評価の方法

筆記試験100％

教科書・参考書・その他の教材

系統看護学講座　基礎看護学①看護学概論　医学書院
系統看護学講座　基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ　医学書院
系統看護学講座　基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ　医学書院
医学書院根拠と事故防止からみた　基礎・臨床看護技術　医学書院
系統看護学講座　人体の機能と構造①解剖生理学　医学書院解
系統看護学講座　人体の機能と構造④病態生理学　医学書院

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
診療補助技術Ⅱ （生体機能管理・検体採取・与薬）	2年前期	1	30	（看護師として５年）

科目のねらい

看護の対象や医療者の感染予防のために必要な知識、技術や検査・治療・処置に伴う看護技術を理解する。さらに、人体に直接作用する薬剤の危険性と看護師に課せられる法的責任を認識し、安全・正確に与薬を実施できる技術を習得することを目的として設定した。

到達目標

１．診療に伴う感染予防・与薬援助技術を習得する

DPとの関連

◎3.看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる

授業計画

回	目標	学習内容	方法	担当
1	症状・生体機能管理技術について述べることができる	①症状・生体機能管理技術の基礎知識 ②血液検査(真空管採血、簡易血糖検査)、尿検査、便検査 ③検体の取り扱い ④生体情報のモニタリングについて種類と援助時の留意点	講義	
2			講義	
3	真空管採血の方法、留意点を理解し、実施できる	真空管採血の実際	演習	
4				
5	簡易血糖検査の方法、留意点を理解し、実施できる	簡易血糖検査の実施	演習	
6	与薬の援助について基礎知識と投与方法、および援助時の留意点を述べることができる①	与薬の基礎知識 ①薬物療法の目的 ②薬物療法に影響する因子 ③薬物療法における看護の役割と機能 ④与薬の原理原則、誤薬防止	講義	
7	与薬の援助について基礎知識と投与方法、および援助時の留意点を述べることができる②	与薬経路別の基礎知識と援助方法および留意点① 経口与薬、直腸内与薬、その他の与薬方法	講義	
8	与薬の援助について基礎知識と投与方法、および援助時の留意点を述べることができる③	与薬経路別の基礎知識と援助方法および留意点② 筋肉内注射、静脈内注射、皮下注射、皮内注射の方法と留意点、輸液ポンプ、シリンジポンプ	講義	
9	注射について基礎知識と実施方法、および実施時の留意点を述べ、実施できる①	皮下注射の実施 ①アンプルカット、アンプルからの薬液吸引 ②刺入部の確認 ③刺入角度	講義 演習	
10				
11	注射について基礎知識と実施方法、および実施時の留意点を述べ、実施できる②	筋肉内注射の実施 ①刺入部の確認 ②刺入角度	講義 演習	
12				
13	注射について基礎知識と実施方法、および実施時の留意点を述べ、実施できる3	静脈内注射の実施 ①ミキシング、プライミング、バイアルからの薬液吸引 ②刺入部の確認 ③刺入角度	講義 演習	
14				
15	輸血管理の方法と留意点を述べることができる	①輸血についての基礎知識 ②実施時の援助と留意点	講義 演習	佐賀 赤十字社

受講上の注意

意欲的に授業に取り組むこと。演習時、真剣に取り組むこと。

関連科目

心理学、看護者のための心理学、倫理学、解剖生理学Ⅰ

事前および事後学習

心理学、看護者のための心理学、倫理学、解剖生理学Ⅰを復習し、本授業に取り組む

成績評価の方法

筆記試験100%

教科書・参考書・その他の教材

系統看護学講座　基礎看護学①看護学概論　医学書院
系統看護学講座　基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ　医学書院
系統看護学講座　基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ　医学書院
医学書院根拠と事故防止からみた　基礎・臨床看護技術　医学書院
系統看護学講座　人体の機能と構造①解剖生理学　医学書院解
系統看護学講座　人体の機能と構造④病態生理学　医学書院

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
臨床判断演習	2年前期	1	15	（看護師として９年）

科目のねらい

より実践的な看護につながるよう、既習の学習内容を用いて、学生の「気づき」、「解釈する」、「反応する」、「省察する」の臨床判断プロセスを学ぶ科目とした。

到達目標

１．臨床判断プロセスの基本を学ぶ

DPとの関連

◎3.看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる

授業計画

回	目標	学習内容	方法	担当
1	対象の状態について「気づき」「解釈する」ことができる	肺炎、既往歴（糖尿病、心不全）の入院3日目の状況でアセスメントを実施 「気づき」「解釈する」 用紙に記載する	講義 GW	
2	対象の状態を「解釈する」ことができる	肺炎、既往歴（糖尿病、心不全）の入院3日目の状況でアセスメントを実施 「解釈する」 用紙に記載する	GW	
3	標準計画に個別性を追加して「反応する」「省察する」ことができ、必要な看護を導き出すことができる	肺炎、既往歴（糖尿病、心不全）の入院3日目の状況でのアセスメントより計画を立案し、実施する 「反応する」「省察する」 援助を考える:標準看護計画使用し、個別性を追加して実施する	GW 演習	
4			演習	
5			演習	
6	対象に必要な援助を「反応する」「省察する」ことができる	援助計画を実施する 援助場面を動画に残し、振り返る 「反応する」「省察する」 計画としてあがった援助を1援助を１Gが実践する	演習 シュミレーション	
7			演習	
8			演習 リフレクション	

受講上の注意

意欲的に授業に取り組むこと。演習時、真剣に取り組むこと。

関連科目

解剖生理学Ⅰ、解剖生理学Ⅱ、病理学、病態論Ⅰ、病態論Ⅱ、病態論Ⅲ、基礎基本技術Ⅰ、基礎基本技術Ⅱ、基礎基本技術Ⅲ、生活援助技術Ⅰ、生活援助技術Ⅱ、生活援助技術Ⅲ

事前および事後学習

事例の疾患について学習してくる

成績評価の方法

ルーブリック　80%　レポート20%

教科書・参考書・その他の教材

系統看護学講座　基礎看護学①看護学概論　医学書院
系統看護学講座　基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ　医学書院
系統看護学講座　基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ　医学書院
系統看護学講座　基礎看護学④臨床看護総論
医学書院根拠と事故防止からみた　基礎・臨床看護技術　医学書院
系統看護学講座　人体の機能と構造①解剖生理学　医学書院解
系統看護学講座　人体の機能と構造④病態生理学　医学書院

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
臨床看護技術 （総合看護技術）	1年後期	1	15	（看護師として10年）

科目のねらい

対象の発達段階や状態に応じて、看護基本技術及び生活援助技術で学習した知識・技術を統合して実践することを学ぶ。

到達目標

１.看護基本技術及び生活援助技術で学習した知識・技術を統合して実施できる。

DPとの関連

◎3.看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる

授業計画

回	目標	学習内容	方法	担当
1	【環境調整、清潔・衣生活援助技術】 状態にあったシーツ交換と清潔援助ができる	シーツ交換、清拭・寝衣交換、陰部洗浄、おむつ交換の複合技術	演習	
2			演習	
3			演習	
4			演習	
5			演習	
6			演習	
7	死の看取りの援助について理解できる	１．風習に根づく死後の処置のあり方が理解できる ①日本文化の中の葬送儀礼 ②葬送儀礼と看護 ２．死後の処置における基礎知識が理解できる ①死の三徴候 ②死後の経時的な変化 ３．死後の処置の実際が理解できる	演習	
8				

受講上の注意

意欲的に授業に取り組むこと。演習時、真剣に取り組むこと。

関連科目

基礎看護学概論、看護基本技術Ⅰ、看護基本技術Ⅱ、看護基本技術Ⅲ、生活援助技術Ⅰ、生活援助技術Ⅱ、生活援助技術Ⅲ、解剖生理学Ⅰ、解剖生理学Ⅱ、病態学

事前および事後学習

既習の技術援助の復習をしてくる（動画視聴も含む）

成績評価の方法

筆記試験30%　ルーブリック60%　レポート10%

教科書・参考書・その他の教材

系統看護学講座　基礎看護学①看護学概論　医学書院
系統看護学講座　基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ　医学書院
系統看護学講座　基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ　医学書院
系統看護学講座　基礎看護学④臨床看護総論
医学書院根拠と事故防止からみた　基礎・臨床看護技術　医学書院
系統看護学講座　人体の機能と構造①解剖生理学　医学書院解
系統看護学講座　人体の機能と構造④病態生理学　医学書院

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
臨床看護総論 （経過別・検査・治療処置の看護・医療機器）	1年後期	1	30	（看護師として５年）

科目のねらい

健康状態の経過別に応じた医療や対象のニーズ、看護の特徴について学ぶ。また、検査・治療を受ける対象者に必要な看護、い両利きを安全に用いるための知識や看護について学ぶ内容とした。

到達目標

１．健康状態の経過に応じた医療や対象のニーズ、看護の特徴について学ぶ。
２．検査、治療・処置を受ける対象者に必要な看護、医療機器を安全に用いるための知識や看護について学ぶ。

DPとの関連

◎3.看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる

授業計画

回	目標	学習内容	方法	担当
1	経過別看護の特性 急性期における看護を述べることができる	看護における経過 ①急性期の特徴 ・救急看護の特性（救急看護とは、重症集中治療、手術療法、放射線療法、化学療法）	講義	
2		③急性期の患者のニーズ ④急性期にある患者への看護援助	講義	
3	慢性期における看護を述べることができる	①慢性期の特徴 ②慢性の患者のニーズ ③慢性期にある患者への看護援助 ・セルフケア継続	講義	
4	リハビリテーション期における看護を述べることができる	①リハビリテーション期の特徴 ②リハビリテーション期の患者のニーズ ③リハビリテーション期にある患者への看護援助 ・身体可動性障害とセルフケア	講義	
5	終末期における看護を述べることができる	①終末期の特徴 ②終末期の患者のニーズ ・自分らしく生き抜く	講義	
6		④終末期にある患者への看護援助 ・疼痛ケア（麻薬管理） ・苦痛に対するマネジメント ・倫理的課題と意思決定支援	講義	
7	検査、治療別看護 検査を受ける対象者への看護を述べることができる	①検査の種類と特徴 穿刺液検査、内視鏡検査、X線検査、CT検査、MRI検査、IVR・血管造影	講義	
8		②検査を受ける対象のニーズ ③検査を受ける対象の看護 ④身体侵襲を伴う検査・治療を受ける対象の看護	講義	
9	手術療法を受ける対象者の看護について述べることができる	①手術侵襲と生体反応	講義	
10		②手術前の看護（IC、心理的アセスメント、意思決定への支援、術前準備） ③手術期の看護（手術室の環境、手術中の看護、手術室看護師の役割）	講義	
11	手術療法を受けた対象者の術後合併症の症状と看護について述べることができる	④術後の看護（肺合併症、循環不全、術後せん妄、イレウス、深部静脈血栓症、術後感染、縫合不全）	講義	
12	放射線療法を受ける対象者の症状を述べることができる。	放射線療法を受ける患者の看護 ・放射線療法の種類と特徴 ・照射時の看護 ・照射後の看護 ・放射線防護の三原則	講義	
13	化学療法を受ける対象者の症状を述べることができる。	化学療法を受ける患者の看護 ・化学療法の特徴　　・治療前の看護援助 ・薬物投与時の看護 ・薬物投与後の看護	講義	
14	医療機器と看護	医療機器を安全に使うために ①医療機器を使用する環境 ②測定用医療機器の原理と実際	講義	

14		②測定用医療機器の原理と実際 ・心電図モニター ③治療用医療機器の原理と実際	講義	
15		・人工呼吸器 ・輸液ポンプ ・除細動器 ④医療機器使用時の看護	講義	

受講上の注意

意欲的に授業に取り組むこと。演習時、真剣に取り組むこと。

関連科目

心理学、看護者のための心理学、倫理学、解剖生理学Ⅰ

事前および事後学習

看護者のための心理学を復習し、本授業に取り組む

成績評価の方法

筆記試験100%

教科書・参考書・その他の教材

系統看護学講座　基礎看護学①看護学概論　医学書院
系統看護学講座　基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ　医学書院
系統看護学講座　基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ　医学書院
系統看護学講座　基礎看護学④臨床看護総論
医学書院根拠と事故防止からみた　基礎・臨床看護技術　医学書院
系統看護学講座　人体の機能と構造①解剖生理学　医学書院
系統看護学講座　人体の機能と構造④病態生理学　医学書院
系統看護学講座　別巻　臨床放射線医学　医学書院
系統看護学講座　別巻　臨床検査　医学書院

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
基礎看護学実習Ⅰ	1年後期	1	45	（看護師として９年）

科目のねらい

看護を学ぶ入り口として看護の実践の場に触れ、看護活動を体験する。また、この体験が看護師を志す学習者としての意欲を高め、看護観の形成につなげる。また、対象者に必要な援助を導き出し、日常生活援助が実践できることを目標とする。

到達目標

１．看護師の働く場を理解する
２．関係構築のためのコミュニケーションの方法を理解する
３．日常生活の援助を一部実施できる

DPとの関連

◎3.看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる

回	目標	学習内容	方法	担当
1	実習1日目 （基礎看護学実習Ⅰ－1）	①病院・病棟の構造・機能を知る ②看護・医療におけるコミュニケーション ③看護場面の見学	臨地実習	
2	実習2日目 （基礎看護学実習Ⅰ－1） 実施した援助を振り返ることができる	学内で学びの共有	（学内）	
3	実習1日目 （基礎看護学実習Ⅰ－2）	①コミュニケーション手段と実践 ②対象者に応じた日常生活援助の実施 （環境整備、バイタルサイン測定、対象者に応じた日常生活の援助）	臨地実習	
4	実習2日目 （基礎看護学実習Ⅰ－2）		臨地実習	
5	実習3日目 （基礎看護学実習Ⅰ－2）		臨地実習	
6	実習4日目 （基礎看護学実習Ⅰ－2）		臨地実習	
7	実習5日目 （基礎看護学実習Ⅰ－2） 実施した援助を振り返ることができる	学内で学びの共有	（学内）	

受講上の注意

・能動的学習形態である
・積極的な姿勢で学習に取り組む

関連科目

心理学、倫理学、看護者のための心理学、解剖生理学Ⅰ、解剖生理学Ⅱ、基礎看護学概論、看護基本技術Ⅰ、看護基本技術Ⅱ、看護基本技術Ⅲ、生活援助技術Ⅰ、生活援助技術Ⅱ、生活援助技術Ⅲ

事前および事後学習

既習学習の内容についてはすべて事前に学習し実習する

成績評価の方法

実習内容に基づく評価表を用いて評価する

教科書・参考書・その他の教材

系統看護学講座　基礎看護学①看護学概論　医学書院
系統看護学講座　基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ　医学書院
系統看護学講座　基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ　医学書院
系統看護学講座　基礎看護学④臨床看護総論　医学書院
医学書院根拠と事故防止からみた　基礎・臨床看護技術　医学書院
系統看護学講座　人体の機能と構造①解剖生理学　医学書院解
系統看護学講座　人体の機能と構造④病態生理学　医学書院

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
基礎看護学実習Ⅱ	2年前期	2	90	（看護師として９年）

科目のねらい

対象を身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解し、アセスメント、看護問題の抽出、看護計画の立案、実施、評価の一連の看護過程のプロセスを体験できることを目標とする。

到達目標

1.対象者を身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解することができる
2.看護問題を抽出することができる（看護診断ができる）
3.対象者の望ましい状態を考え、看護計画を立案することができる
4.対象の安全・安楽を考慮して実施できる
5.実施した援助を通して、対象者の反応を振り返り、看護計画を評価・修正できる

DPとの関連

◎3.看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる

授業計画

回	目標	学習内容	方法	担当
1	実習1日目	（1）病院・病棟オリエンテーション （2）受け持ち対象者と関係が築けるようにする （3）対象の理解ができる ①情報収集を系統的に行う ②情報の整理・解釈を行う ③情報の分析を行う （4）受け持ち対象者に実施されている、治療や看護援助の見学	臨地実習	
2	実習2日目	（1）受け持ち対象者と関係が築けるようにする （2）対象の理解ができる ①情報収集を系統的に行う ②情報の整理・解釈を行う ③情報の分析を行う （3）受け持ち対象者に実施されている、治療や看護援助の見学	臨地実習	
3	実習3日目		臨地実習	
4	実習4日目	対象者の理解と看護診断の発表	臨地実習	
5	実習5日目	看護計画発表	臨地実習	
6	実習6日目	（1）看護計画に基づいた日常生活の援助を行う （2）実践した援助を評価し、看護計画の修正を行う	臨地実習	
7	実習7日目		臨地実習	
8	実習8日目	（1）修正した看護計画に基づき看護援助を実施し、評価する	臨地実習	
9	実習9日目		臨地実習	
10	実習10日目	実習のまとめ	臨地実習	
11	実習11日目	実習の振り返り	（学内）	
12	実習12日目		（学内）	

受講上の注意

・能動的学習形態である
・積極的な姿勢で学習に取り組む

関連科目

基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ、フィジカルアセスメント
看護過程、解剖生理学Ⅰ、解剖生理学Ⅱ

事前および事後学習

実習要項を熟読しておくこと
受け持ち対象者に実施できるレベルまで、看護技術を練習しておく
看護過程について復習しておく

成績評価の方法

実習内容に基づく評価表を用いて評価する

実習内容に基づく評価表を用いて評価する

教科書・参考書・その他の教材

系統看護学講座　基礎看護学①看護学概論　医学書院
系統看護学講座　基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ　医学書院
系統看護学講座　基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ　医学書院
系統看護学講座　基礎看護学④臨床看護総論　医学書院
医学書院根拠と事故防止からみた　基礎・臨床看護技術　医学書院
系統看護学講座　人体の機能と構造①解剖生理学　医学書院解
系統看護学講座　人体の機能と構造④病態生理学　医学書院